

「秘密保護法案」の危険性を訴えるアピール

多くの国民が危惧する中、「秘密保護法案」が国会で審議されています。

「伊藤千代子こころざしの会」は下記のアピールを発表しました。

アピール

「伊藤千代子こころざしの会」は来年15周年を迎えます。「顕彰碑」建立からは17周年となります。

歌人であり恩師でもあった土屋文明さんの歌の中に、「こころざしつゝたふれし少女よ 新しき光の中に置きて思はむ」の歌があります。

この歌を歌った時代は、あの稀代の悪法といわれた治安維持法下の昭和10年、「アララギ」誌上でした。

戦前の暗黒時代、その存在すら消されてしまうという時代、土屋文明さんの歌が闇から救い出す手がかりとなり、戦後1997年、出生地に「顕彰碑」建立という名誉回復に立ち至りました。

「新しき光の中に」という時代は、新憲法制定とともに訪れたかに見え、戦後民主主義のもと68年の歴史を刻んできました。しかしここにきて風雲急、歴史の逆流がすさまじい勢いで展開されています。

名は「秘密保護法案」といっていますが、その内容・実質たるや、戦前の「治安維持法」をはるかにしのぐ極悪な弾圧法といわざるをえません。いや「法」というより“法の体をなしていない”「国民威嚇弾」というべきものです。

戦前の治安維持法の制定、弾圧の指揮・下手等に長野県出身の小川平吉、山岡万之助、原嘉道、渡辺千冬、塩野季彦、唐沢俊樹といった人々が活躍したことを私たちは承知しています。

「伊藤千代子顕彰碑」建立は、稀代の悪法といわれた治安維持法による犠牲者の代表として、歴史のあかし（証）としての意味合いもあります。

2013年11月30日のこの時点で、私たちは伊藤千代子のこころざしに思いをいたし、「秘密保護法案」“断固廃案しかなし”との声明・アピールを発するものです。

2013年11月30日
「伊藤千代子こころざしの会」